

## HKU School of Professional and Continuing Education (HKU SPACE)

(香港大學專業進修學院)

所在地: Room 304, 3/F, T.T. Tsui Building, The University of Hong Kong, Pokfulam Road,  
Hong Kong

創立年度: 1956 年

設置形態: 非営利団体

学生数: 105,427 名 (17,500 名: フルタイム学生) (2003-04 学年度)

留学生数: 不明

教職員の数: 約 750 名 (専任), 約 2,000 名 (非常勤) (2004 年)

学部機構: 人文学部、商学部、情報工学 (IT) 部、経済学部、法学部、健康応用科学部、  
中国医学部、経営学部、マーケティング学部、社会科学・都市研究・教育学部

Web Site: <http://hkuspace.hku.hk/index.php>

HKU SPACE は、地域社会に質の高い生涯学習の機会を与えることを目的とした、香港で最初の大学付属生涯教育機関である。1956 年に University of Hong Kong's Department of Extra Mural Studies (EMS) として設立され、1992 年に、School of Professional and Continuing Education (HKU SPACE) と改名した。SPACE の運営は、香港大学が非営利団体を通して行っている。その非営利団体の理事会 (Board of Directors) は、香港大学の教職員や地域社会の人々で構成されている。SPACE のプログラムは、基本的に専門・生涯教育理事会 (Board for Continuing and Professional Education and Lifelong Learning) を通じて香港大学の評議会 (University Senate) によって監督されているが、地域社会の有力な代表者を含む SPACE 理事会に対する諮問機関 (Advisory Board to the Board of Directors) によってもモニターされている。1956 年以來の在学者数は約 150 万人にもおよぶ。SPACE は英国、豪州、米国、中国本土や香港の 59 の高等教育機関と提携を結び、卒業資格 (diploma) や学位が取れるプログラムを提供している。全体では、46 のフルタイム・プログラムと 881 のパートタイム・プログラムやコースを提供している。また、ウェブサイトを基盤としたオンライン・ラーニング・プラットフォーム (HKU SPACE Total e-Learning Solution Online: SOUL) を開発し、学生と教員が授業や学習のことについて、授業時以外に連絡を取り合う手段として活発に用いられている。

HKU SPACE が提携している海外の大学

中国: 東北財形大学、精華大学、復旦大学、中山大学、浙江大学、北京師範大学珠海校区、  
蘇州科技学院

豪州: Charles Sturt University, Curtin University of Technology, Deakin University, Monash University, University of New England, University of Sydney, University of Wollongong, Victoria University

英国: Bath University, Goldsmiths College, Kingston University, Manchester

Metropolitan University, Middlesex University, Napier University, Royal Holloway and Bedford New College, University of Greenwich, University of Leicester, University of London, University of Nottingham, University of Strathclyde, University of Sunderland, University of Surrey, University of Wales Institute, Cardiff, University of Ulster

米国 : California State University, Fullerton, University of California-Berkley Extension, University of Michigan- Dearborn

出典 : About HKU SPACE

<http://hkuspace.hku.hk/about/about.php>

## 《インタビュー1》

実施日：2004年3月3日（水）

場所：HKU SPACE のアドミラルティ・ラーニング・センター（Admiralty Learning Centre）

協力者：陳徳奇氏、プログラム・マネージャー（Mr. T. K. Tan, Programme Manager）

インタビューの目的：

- HKU SPACE に関する全般的な情報を得ると共に香港大学（HKU）と HKU SPACE の関係を理解する。また HKU SPACE の香港の高等教育における位置づけを探る。

### 1. 香港での教育について

- 香港には、生涯学習の歴史と伝統がある。香港人は6時以降、勉強するかまたはサイドビジネスをするかという習慣がある。また、自己啓発に対する企業の援助もかなりある。
- 転職が一般的であった香港では、不景気の影響で転職が少なくなり、継続して（甘んじて）同じ会社で働くケースが増えてきた。しかし、昇進のためあるいは転職のためにさらなる自己啓発に努め、自らの価値を高めようとするものは依然として多い。
- 香港では、20万人が生涯学習に従事している。そのうち10万人は、SPACE で学んでいる（延べ人数）。
- CEF (Continuing Education Fund)
  - 国の学費補助制度、生涯（60歳まで）総額で10,000香港ドル（約14万円）まで。ただし、補助される学問領域が指定されている（香港の経済発展に寄与する分野）。学費の80%が返還される（ただし、語学関係科目の場合、課程終了後、指定の試験に合格しなければならない）。

### 2. SPACE の業務内容について

- SPACE の中に QA のための専門チームがある。質を高めることによって、エージェントのプログラムや他大学のプログラムとの差別化を図る。
- SPACE はカルチャースクール的な授業だけでなく、香港大学本体にないような学問領域のプログラムをやり始めた。そのうち香港人のニーズを満たすような革新的なあるいは実践的なプログラムを立ち上げた。実態としては大学が持つ非営利団体の学校（付設の学校）として財政的にも独り立ちしている。
- プログラム・マネージャーの下にプログラム・リーダーがいる。Tan 氏（プログラム・マネージャー）の場合、35人の非常勤講師を監督する。非常勤講師の採用は人脈が頼り。
- プログラム・リーダーの責務として、授業参観（Class Observation）、授業評価（Student Evaluation）、受講者からの苦情の処理などがある。

- SPACE は、5-6 の分校を中国に作った。その一つは復旦大学との合作。
- オックスフォード大学と SPACE との合作で、中国大陸に Certificate のプログラムを作った。オックスフォード大学のプランは、上海で半年、香港で半年、オックスフォードで半年という 1 年半のプログラムであった。語学レベルやオックスフォード大学のブランド管理に関する問題があった。また、中国大陸におけるコピーライトの概念の欠如も問題だった。このプランは、一般的な海外の企業の中国大陸進出に似ていた（海外の企業と香港の企業が合作し、中国大陸に進出する）。
- SPACE の場合、短期間でプログラムを作ることもできるし、受講者が少ない（減った）ものはすぐに廃止できる。スクラップ and ビルトは、一般的である。
- SPACE の総収入は、年間 6 億 4000 万香港ドル（約 90 億円）。
- SPACE の問題の一つは常に空き教室を作らないようにする。日本語科目 150 のうち、60 ぐらいは高校の教室を借りている。レンタル料が安いから（香港大学で借りるより安い）。
- 受講者には航空会社のマイレージプログラムに似たものが用意され、SPACE のプログラムを受講するほどポイントが貯まり、次回受講の際の学費の割引に使える。

### 3. SPACE の教員 について

- SPACE の専任職員は約 550 人、専任教員は 200 人（専任教職員は合計約 750 人）、非常勤講師は約 2,000 人（経費節減に寄与している）。
- 香港大学と SPACE の教員の違い。香港大学はより研究、学究的なタイプの教員 SPACE はより実践的な教育をするために、教えることが好きな教員が多い（教育中心）。
- 研究ができないという理由で、SPACE を辞める教員は多い。
- SPACE における昇進は自己申告制。定期昇給は、現在凍結されている。
- 香港大学本体の支出に占める人件費の割合は高い。学院長（学部長）の給与は日本円で 400 万円（月額）ぐらい。SPACE の場合は、すべて契約制の雇用で 2 年が一つの単位になっている。2 年ごとに給与の 115% 分の退職金が出る。

### 4. オフショア・プログラムについて

- オフショア・プログラム間の競争は激しい。エージェンが行っているオフショア・プログラムも多い。
  - ▶ エージェンがオフショア・プログラムをやる場合は、政府に登録しなければならない(Registered Courses)。
- オフショア・プログラムの教員構成：現地調達教員（本校の審査にパスする必要がある）と本校からの派遣教員の混成が一般的
- 香港では、豪州と英国のオフショア・プログラムが多い。米国のものは少ない。英国の場合、ポリテクニクから大学にアップグレードした新大学（必ずしも有名な大学

ではない) がオフショア・プログラムを積極的に売り込んでいる。

- オフショア・プログラムの発展は、香港人の海外留学者数には影響を及ぼしていないようだ。オフショア・プログラムの対象者は、海外留学希望者と重ならない。オフショア・プログラムは社会人向け、海外留学は若者中心。

#### 5. SPACE と香港大学について

- SPACE は、香港大学にフランチャイズ料を払っているようなもの。香港大学があつての SPACE と言うのは間違いない。ブランドを借りているわけで、その名義料（ブランド料）を払うのはある意味当たり前といえる。
- SPACE は、香港大学というブランドのもとにある。ブランド管理が重要である。
- 香港における高等教育進学率（UGC8 大学）は 18%。その数約 14,500 人。別途 4,000 人が準学士のプログラムに進む。現在、中等後教育への進学率は 48%。これを 60%まで引き上げるのが、香港政府の目標。香港で中学（5 年）の修了者は約 8 万人いる。統一試験を受けて、そのうち大学予科に進める学生は 3 万数千人。大学予科の 2 年目で A レベルの試験に合格する人は、約 15,000 人。
- 香港大学そのものが、かなりの自治権を持っている。よって、そのエクステンション・センターである SPACE も高い自治権を持っている。
- SPACE の収入の一部は、香港大学に上納している。香港大学本体に間接経費も払っている（管理運営コスト、教室使用料、ディレクターコスト、インストラクションコスト等）
- UGC からの財政的援助の削減に伴い、香港大学が収益の上がるプログラムを始めたため、結果として香港大学と SPACE は似たようなプログラムを持ち、現在同じマーケットでも競争している。その例として香港大学本体が、パートタイムの MBA プログラムを始めた。
  - SPACE のパートタイム MBA プログラムは外国の大学のオフショア・プログラムである。同じパートタイム MBA プログラムを提供している香港大学本体と SPACE の競争はますます激しくなっている。香港大学のパートタイム・プログラムには、約 5,000 人の受講者がいる。それに対して、SPACE は、10 万人の受講者を抱えている。
- SPACE は、独自で学位を出すプログラムを提供できない（SPACE は学位を出せない）。しかしながら、一般的には香港大学との共同プログラムを持ちたいとは思っていない。
- かつて、UGC から SPACE にも補助・援助金があつた。また香港大学から SPACE に天下りする教員も多かった。
- SPACE を例えれば、家出した息子が成功して本家に戻ってきたが、本家に元々いた兄弟はその成功がおもしろくない。SPACE の香港大学に対する財政的な貢献度は高いにもかかわらず、SPACE の成功を良く思わない教職員が香港大学本体にいることもまた

事実である。

## 6. その他

- 香港における日本語学習者は約 1 万人。
- 今年 9 月から、準学士のプログラムを始める。中国から私費（自費）留学生を受け入れることになる。北京、上海、広東省の人々は、香港に自由に行き来できるようになった。現在、香港における観光客の 30-40%は大陸中国からの人々が占めている。
- 中国と香港の関係はより密になっている。香港人にとって、中国のことを勉強するのは必須となっている。香港は人の流動性が高いので、常に勉強して（自己投資をして）、自分の価値を高めておかなければならない。ある意味香港人は常に勉強していなければならないという強迫観念に駆られている。昔大学が二つしかなかった時代の人々が現在、管理職についている。彼らからみると部下に学位を持っているものが増え、自らも学位を取らなければならないという意識が高い。
- 現在の日本の大学のエクステンション・センターは、香港の 30-40 年前の状況に似ているといえる。

## 《インタビュー2》

実施日：2004年3月4日（木）

場所：HKU SPACEの本部（香港大学キャンパス内）

協力者：伍慧珠氏、(Ms. Deborah Ng, Senior Quality Assurance Officer, Quality Assurance Dept.)

インタビューの目的

- HKU SPACEにおけるプログラム（海外の大学のオフショア・プログラムを含む）の管理運営、特に評価や質保証のシステムについて理解する。

### 1. Quality Assurance（質保証、以下QAとする）について

- SPACEは香港大学のAcademic Unitの一つである。QAチームの役割は、QAを推進することであり、監査役（Auditor）ではない。
- QAの目的、手続きについては、SPACEのウェブサイトまたは、配布したブックレットに詳しく出ているので、それを参照してほしい。成人に継続的で専門的な教育を提供することがSPACEの任務である。目的にそった教育を提供するため、ブックレットにはQA Systemの要約、政策、規制、手続きについて書かれている。
- 香港大学本体にQAチーム属さないが、プログラム認可の責任は大学本体にある。教務部（University Registrar）は大きな部署であり、外部調査官（External Examiner）などが含まれる。教務部はQA活動が機能するよう調整する。SPACEのQAチームと大学の教務部は共同で働く。QAチームは、大学の教務部に対して、オフショア・プログラムやSPACEプログラムなど、プログラムの内容や質に関して報告しなければならない。大学の教務部は、他大学や他の学部から専門家を招いて、それを審査する。その結果を教務部は、香港大学の評議員会（University Senators）に報告しなければならない。QAを行うために、香港大学の教員、香港の他大学（たとえば香港中文大学）の教員、一般企業（たとえばIT企業）の専門家等の助言を得る。
- 海外の大学が香港大学で新しい（オフショア）プログラムを始める場合でも、QAスペシャリスト・チームは、プログラムの計画やシラバスの認証（Validation）、学生による授業評価のための質問紙、講義の具体的な内容等の事項を管理する。QAに関するポリシーは海外のオフショア・プログラムにも適応される。プログラムとしては、海外のものも受け入れるが、カリキュラムの中身はある程度香港の特性、ニーズを加味したものでなければならない。つまり、プログラムの構成は、米国、英国や豪州の大学のカリキュラムをコアに、香港や国際的な事情を考慮した内容を加えたものとなる。このことで、本国の大学のカリキュラムの本質は変えずに香港の事情に合った学習内容がほどよくミックスされる。これは香港人学生にとって、受講のベネフィットを最大化する狙いがある。
- 他大学にもSPACEと同じように、QAの役割を担う人々はいるが、QA Officerという

専門職ではなく、大学本体の教務部の下に置かれている。生涯教育機関に関しては、それぞれの大学が SPACE に似たものを持っているが、SPACE のような QA のためのスペシャル・チームは持っていないと思う。

## 2. 教員について

- 専任の QA チームは 6 人であるが、SPACE で、QA に携わっている人々は 739 名（総数）である。お互いに協力しながら QA を行う。
- 専任教員は海外で募集もするが、基本的には非常勤講師は香港内で募集する。SPACE における 70 名の専任教員は、香港以外からの出身である（中国医学部に関しては中国大陸出身が多い）。
- オフショア・プログラムについては、大体 50% が地元の教員で、50% が海外の本校からの教員である。それぞれ、自分の大学の講義を行う。ただし精華大学とのプログラム（Second Law Degree Program）についていえば、学生は中国大陸の法律を習いたがっているため、精華大学の教員が 100% である。
- SPACE は基本的に教員の研究能力よりも教育能力に重点を置いている。昼間は仕事場で働き、夜間に大学で教えるといった、経験豊富な教員（非常勤）を集めるようにしている。実社会のリアルな経験をプログラムに反映させたいと思っている。現在このようなタイプの教員は 1000 人以上いる。

## 3. 学生について

- 現在、Community College には 4,000 人のフルタイム 学生がいる。
- 香港において、UGC (University Grants Committee) の補助を受けている大学のフルタイム学生は、同一年齢層の 16~18% (14,500 人/年) である（大学進学率と数）。経済的困窮者への奨学金がある。

## 4. プログラムについて

- 一つのプログラムを立ち上げる前に、そのプログラムは、審査委員会の審査項目（ブックレットの Chapter4 にある Program Validation and Approval Process）をすべてパスしなければならない。シラバス、入学必要条件、評価の仕方、試験、課題、授業時間を計画書に書き、SPACE のプログラム・マネージャーに提出する。審査委員会には学内でだけでなく、学外の専門家も含まれている。施設設備、テキストブック、教員、シラバス、カリキュラム、試験などが審査の対象となる。審査の過程で問題が見つければ、助言が与えられ、そのプログラムは修正をしなければならない。この課程を経て認証されれば、新しいプログラムが開始される。また、開始後もその質を維持させなければならない。
- 1997 年にオフショア・プログラムに関する法令が施行された。以前は法律がなく、ど



んな機関でも自由にプログラムを開始できた。そのため、プログラムの質の格差が大きかった。学費を払い、学位を買うことができる所もあった。

- 国際学位課程 (International Degree Program) は新しいプロジェクトであり、フルタイムのプログラムである。ある程度の学費は払えるが、海外に行く余裕のない学生のために、海外のプログラムを香港に招くものである。
- 大学独自の収益事業の必要性が、独立採算 (Self-funding) プログラム (主としてパートタイム・プログラム) につながった。香港大学本体が SPACE の成功を見て、大学の独自の収入拡大のためにも大学そのもののパートタイム・プログラムを行い始めた。現在多くの香港大学本体のパートタイム・プログラム (Certificate, Diploma/High Diploma) がある。大学の学士課程に入学するための競争は依然として激しいため、Social Degree (フルタイム) 取得後、経済的に海外留学できない SPACE の卒業生のために、SPACE もフルタイム・プログラムを行うことにした。
- SPACE における剰余金 (黒字) は、教育環境向上、教育プログラム向上のために使われる。利益を学生に還元している。
- 学士課程は 2002 年、準学士課程は (Community College) 2001 年に開始。

#### 5. 評価について

- 学生の意見をフィードバックすることは重要。香港に合ったカリキュラムを模索している。学生は私的に意見を言うことができ、SPACE のプログラムは学生中心 (Student-centered) プログラムと言える。
- 学生による授業評価は、学期末に全プログラムの全科目について、質問紙を通して行われる。質問紙は SPACE の事務局で回収され、目を通された後、学生の下へ戻される。プログラム・リーダーは QA について、第一義的な責任を持つ。まず、授業参観 (Class visit) をしなければならない。
- プログラム開始前は、認証委員会 (Validation Panel) で、招待した専門家が評価をする。開始後は、プログラムにかかわるベンチマーク評価については、ステイクホルダーがかかわる。特に学生からの電話、手紙によるコメント、学生へのアンケート調査 (授業評価) は重要。プログラムの内容や教員を評価する。そのほかに試験の内容なども重要。他大学の同専門分野の教員が審査する外部審査 (External Exam、英国でよく行われている) がある。
- UGC は 2002/03 年に外部評価 (External Review) として「教授と学習に関する過程の質評価 (Teaching and Learning Quality Process Review)」を行った。全レポートがウェブに載っている。内容は、10 人以上で構成される UGC の委員会 (シンガポール、英国、米国、蘭国からの招待者を含む) が 8 つの UGC が援助している高等教育機関 (7 つの大学と一つの教員養成所) を訪問して行った教育に関する質の評価についてである。

- UGC の Panel Review Programs について

- 1996/07 年、第 1 回は政府資金を得ている香港大学本体のフルタイム・プログラムだけが対象であった。
- 2002 年、第 2 回は香港大学本体のフルタイム・プログラムだけでなく、全ての生涯教育部門も対象となった。このレビュー・プログラムは、全報告書や認証報告書 (Validation Report) を対象にしており、また、学生にコンタクトをとり、彼らの意見も反映されている。この活動は政府や海外の教授に対して教授と学習 (teaching and learning) の質の高さを伝えることにもなった。このレポートはとても励みになり、質保証において補完的な役割を果たした。SPACE は準学士のプログラムについて、そこに学ぶに学生にふさわしいキャンパスを提供するよう助言された。QA ブックレットの中身は、この QA 制度を参考にしており、専任と非常勤のすべての教員全を対象に評価する。UGC から改善の提案には例えば、キャンパスの環境も含まれる。報告書の中には、評価や観察、コメント、褒め言葉、改善点に関する多くの情報がある。

## 6. 政府との連携について

- Diploma や Certificate のプログラム (SPACE 独自のプログラム)
  - SPACE は香港大学の一部であるため、自己認可制度 (Self-Accreditation System) (政府からのお墨付きをもらっている) がある。香港の他大学も同様である。この場合、プログラム開始前に政府へ報告する必要はない。
- 学位を授与するオフショア・プログラム
  - SPACE は、そのプログラムを始める前に、政府に報告をしなければならないが手続きは比較的容易。市中のエージェントのプログラムと違い大学のエクステンション・センターの場合は、政府から信用を得ているため。エージェントが行っているオフショア・プログラムの場合は、政府の決めた手続きに従って認証 (Accreditation) のための審査を受けなければならない。
- 現在、政府は赤字であるため、大学への資金援助を削減している。このことに対してデモが起きた。教員の給料が 3 回も削減された。
- 政府は中等教育卒業後の学生の 60% (現在 48%) が中等後教育機関に進学する (進学先は大学の他に Community College を含む) ことを目標としている。
- 政府は、学士、準学士のプログラムで学ぶフルタイムの学生のために家計調査に基づく学生ローン・プログラム (Means-tested loan program) を用意している。また政府は、準学士プログラムに補助金を出している。

## 7. コミュニティとの連携について

- SPACE の目的の一つは、コミュニティと共同で作業を行うことである。SPACE は独

立採算の機関である。SPACE に対しては、利益追求を優先しているという批判があるが、Community のために動くことに重点を置いている。事実、SPACE には中等教育卒業後、就職し、その数年後、パートタイム・プログラムで学ぶような学生が多い。彼らに大学レベルの教育が受けられる機会を与えることは使命である。Mission Statement の一つは、地域住民とのインターアクションを促進することである。

## 8. 香港大学について

- 香港大学と SPACE との違い
  - かつて、香港大学はフルタイム・プログラムが中心。SPACE は、パートタイム・プログラムが中心。
  - 現在は、SPACE でもフルタイム・プログラムが盛んであり、香港大学でもパートタイム・プログラムが行われている。
- 香港大学のフルタイム・プログラムにおいては、学費がその教育コストの 16% を占め、残りは政府の補助金でまかなわれている。学生一人当たりのコストは、平均 20 万香港ドル/年（約 280 万円/年）かかると言われているが、香港大学の学生は、平均 42,000 香港ドル（59 万円/年）しか学費を払っていない（プログラムごとに学費は異なり、例えば、63,000 香港ドル/年（88 万円/年）のプログラムもある）。

## 《インタビュー3》

実施日：2004年3月4日（木）

場所：ワンチャイ・ラーニング・センター（Wanchai Learning Centre）

協力者：姚展鵬氏、プログラム・ディレクター（Mr. Benjamin YIU Chin Pang, Programme Director）

インタビューの目的

- HKU SPACE におけるディーキン大学のオフショア・プログラム（建築学）について、立ち上げから管理運営の手法やシステムを理解する。

### 1. 建築学に関するオフショア・プログラム

- 出願要件の語学能力は TOEFL (PBT) で 550 点。
- 建築学の分野で海外学位プログラムを始める場合、海外のパートナー大学を見つけるのがとても難しい。
- 豪州のディーキン大学(Deakin University)は、決してベストのパートナーといえる大学ではない。
  - 建築学のプログラムでは、教授と学生間の個人的なコミュニケーションや親密な指導が欠かせない。現時点では、オフショア・プログラムを提供でき、かつ HKU SPACE の求める要件を満たす大学はとても少ない。他にはクィーンズランド工科大学 (Queensland University of Technology) しかなかった。QUT は、香港城市大学 (City University of Hong Kong) とオフショア・プログラムを行っている。海外のパートナー大学を見つける上において、ある程度妥協せざるを得なかった。
- Deakin University がパートナーとして決まってからも、教授法 (teaching mode) について、またはカリキュラムに関して、香港のコンテキストや事情と Deakin University の既存のカリキュラムをどうミックスするかについて、長い時間討議をした。
- 豪州と香港では、建築の分野においても、環境的な条件がずいぶん違う。また、アカデミックな部分だけでなく、管理運営の上においても両者の間には種々の差異があった。
- プログラムのターゲットとなる学生マーケットについて事前に調査した。
  - 第一のターゲット：他のオフショア・プログラムとは違い、香港の若者で建築学を学びたいが、香港大学あるいは香港中文大学に受け入れられなかった者（香港では、大学で建築学を学ぼうとすれば上記の2校に行くしかない）。これらの学生は経済状況さえ許せば、英国、米国、あるいは豪州の大学に留学すると思われる。
  - 第二のターゲット：すでに建築関係の会社に勤めている人々で学位を取得したいと思っている者。

### 2. その他

- 香港大学の学生のうち、約 5%は大陸中国の出身者である。
- SPACE では、管理職のうち 90%は女性で占められている。教員については、男女比がほぼ半々である。

## 《インタビュー4》

実施日：2004年3月4日（木）

場所：HKU SPACEの本部（香港大学キャンパス内）

協力者：簡頌輝氏、プログラム・ディレクター（Mr. Kan, Sam C.F., Programme Director）

インタビューの目的

- HKU SPACEにおけるキングストン大学のオフショア・プログラム（音楽学）について、授業運営や管理運営全般に関する手法やシステムを理解する。

### 1. 面接回答者の職務について

- 人文学部（Division of Humanity）の音楽、ダンス、歴史、考古学などの学科を担当。また、社会科学部（Division of Social Sciences）の教育学科を担当。合計五つの学会（分野）の海外学位プログラムを約3年間担当。

### 2. 香港大学音楽学部との関係について

- 香港大学の音楽学部は政府より資金援助を得ているが、SPACEは独立採算の機関である。
- SPACEの音楽学に関わるプログラムについては、香港大学音楽学部とSPACEの両者にベネフィットがあるような関係を築こうとしている。しかし、現在までのところ（5年間経過している）、香港大学音楽学部は、SPACEの音楽学関係プログラムについて、興味を示しているが、あまりリソースを提供してくれない（協力的ではない）。
  - 研究主体の香港大学音楽学部にとって、生涯教育をベースとして発展してきたSPACEの音楽学関係プログラムは優先順位が低い。

### 3. SPACEの音楽学関係プログラムについて

- SPACEの音楽学関係プログラムは、香港は英国の植民地だったため、ABRSM(Associated Board of the Royal Schools of Music)の影響を強く受けた。また、音楽に関する各種試験の対策講座としての色合いが強い。国際的な試験の対策講座を揃えている。
- ABRSMが香港大学の施設を使うため、香港大学は国際的な試験の実施者（international examination providers）との関係を構築できると期待している。
- 音楽の国際試験は年齢制限のないものが多く、受験者は様々（学問的なバックグラウンドより、経験や実技能力が重視される）。しかし、音楽学士のプログラムの場合は、学問的基盤も求められる。

### 4. キングストン大学とのオフショア・プログラムについて

- 英国のキングストン大学（Kingston University）が海外学位プログラムのパートナー

である。

- キングストン大学の現地（香港）代表者（キングストンの元学部長）が常駐し、プログラムを監督している。SPACEとしては、英国のキングストン大学といちいち連絡を取ることなく、代表者と直接話し合えるのでやりやすい。
- 最近、代表者が退職し、後任が新たに派遣されたため運営、コミュニケーション、自治などの面で変化が起きている。つまり、キングストンの現地代表者がどれくらい自治、財政、運営面で管理を強化したいかによって、SPACE側の運営が左右される。
- Quality Assuranceについては、キングストン大学側の管理によるところが大きい。
- システム
  - キングストン大学には、学年を重複できない（1年目を終えたら2年目に進んで、2年目を終えたら3年目に進む）という規程がある（フルタイム学生対象だから）。しかし、SPACEの学生はパートタイムであるため、2年目と3年目の授業を同時に受けたいという要求がでた。実際にそのようにしたが、キングストン大学の賛成が得られず、これからは、このような履修は不可能である。
  - これにより、授業の受講者数が変わり、収入などの経済的状況に影響を与え、プログラムを運営するための見積もりコストの見直しが必要となった。
  - パートタイム・プログラムの場合、いかにフレキシブルな制度を提供できるかが、学生を多く集めるためのカギとなる。
- 教員
  - 100%キングストン大学の教員が派遣されて教授している。しかし、常駐ではない。教員が学期中の一定の期間に香港に来て、集中的に講義をする（一日に4～5時間）。
  - SPACEに学期末に来て試験を行う。
  - キングストン大学の教員が不在の期間（学期中）は、IT（E-mail、電話、Fax）を活用したE-Learningとなる。二つのプラットフォーム（香港大学とキングストン大学のもの）が使われる。教員がuploadしたものを、学生がdownloadして学ぶ。キングストンの教員は香港まで何度も来たくない。
- 2つの授業運営スタイル
  - 学期を二つに分け（例えば年度始まりとその半年後の学期末を一つとし、その間をもう一つとする）にわけ、最初の部分は教員が実際にSPACEで教授し、もう一つはE-Learningとする方法。
  - 一つの授業に二人以上の教員を充てる方法。学期の前半と後半の内容をそれぞれが担当する。
- 学生はオプションとして、夏季休暇中にキングストン大学で学ぶことができる。本校でキングストン大学の学生と同様に授業を受け、施設を使うことができると同時に英国の文化や社会を体験できる。またプログラムの半分をSPACEで残りの半分をキング

ストーンで履修することも出来る(キングストン大学と SPACE は同じカリキュラムとモジュールに基づいて授業を行っているので可能)。問題は学生にそれだけの経済的能力があるかどうかにかかっている (SPACE の学生は、政府の学生ローンを借りることはできない)。



## 《インタビュー5》

実施日：2004年3月4日（木）

場所：法学部（Division of Law）

協力者：周朱玉霞氏、法学部プログラム・ディレクター（Ms. Michelle Chew-Chu, Programme Director, Division of Law）

インタビューの目的

- HKU SPACE と中国精華大学間で相互にオフショア・プログラムを提供（受入れ）しているケースについて、その授業運営や管理運営に関する手法やシステムを理解する。

### 1. 面接回答者の所属について

- HKU SPACE の法学部に所属している。Common Law、中国法の科目を担当している。また、中国開発チーム（China Development Team）に属している。
- 法学部に所属しながら応用科学の研究チームと共同で同毒療法（Homeopathy）の概論を担当した。学部を超えて授業を担当するのは、SPACE ならではのことである。

### 2. 法律について

- 中国の司法試験は、1995年より、マカオ、台湾、香港の人々にも受験機会を与えている。HKU SPACE は多くの大学の中から優秀な教員を選びぬき、精華大学との中国法に関する学士課程卒業者のために、司法試験対策の特別コースを開講している。とても厳しい試験で、知識だけでなく、法律家としての力量も審査される。
  - 中国の司法試験は、去年全体で 140,000 人の受験者があり、合格率は 10% 以下であった。
- 中国では、毎年 600 以上の新しい法律が作られている。そのため、法律を知識として理解していても、実践の運用では、その複雑さのため様々な困難が伴う。中国では、法律があっても、それを実際に施行することも難しい。中央政府の法律と省レベルの法律の整合性がとられていないこともしばしばである。

### 3. 精華大学の HKU SPACE におけるオフショア・プログラム（Second Bachelor Degree in Chinese Law）について

- 精華大学の中国法に関するオフショア・プログラムでは、香港で学生を募集し、HKU SPACE で授業を行う。
  - すでに学士（First Degree）を取得した人（学位の種類は特定しない）を対象とするプログラムで、第二学士（Second Degree）を取得するプログラム。
  - 精華大学法学部の教員が SPACE に来て授業を行う。
  - 学生の年齢層は高く、能力も高い。精華大学本部の学生より優秀とコメントされ

ることが多い。

- ▶ 精華大学から試験官が来て、志願者に対して厳しい試験を課す。北京語の試験は特に厳しく、4技能（読み、書き、話す、聞く）について高いハードルを課している。数百名の志願者から、今年は100名を合格とした。
- ▶ 学期中に何度か大陸中国に行って勉強する機会を与える。卒業式は精華大学で行う。
- ▶ 学生の種類は様々である。学生の30%が弁護士志望者であり、他は政府機関や企業等で働く際に必要な法律の知識獲得の目的で勉強している。

#### 4. HKU SPACEの精華大学におけるオフショア・プログラム（香港 Common Law のプログラム）について

- 香港は Common Law を、中国は中国法を採用している。そのため、香港では中国法を学び、理解しようとしている。逆に中国でも香港の Common Law を学び、理解しようとする動きが出ている。香港と中国が近づくために、お互いの法律を知ることは重要である。
- 精華大学のスタジオで Common Law に関するプログラムの授業を行い、中国全土の30から50の放送局を通して配信している（放送大学のようなシステム）。
  - ▶ 目標としては、800人ほどの学生（受講生）確保することであったが、実際には580人の学生が履修した。
  - ▶ 同時に6人の異なった省の学生が6つのスクリーンから映し出されており、質問に答えることが出来るようになっている。
  - ▶ SARSの時は、香港のスタジオで収録し、精華大学にテープを送ったため、休講する必要がなかった。
  - ▶ 中国の各地にスタディ・センターが設置されているため、学生は長時間かけて大学に通う必要はない。広範囲に教育を普及する場合に有効である。
- 中国におけるテクノロジー進歩の遅れはまだ問題である。著作権の問題も解決されていない。

#### 5. その他

- 中国へ海外企業が進出する際、10年前は香港を経由していたが、現在は中国の現代化や開放政策、国際的な地位の上昇により、海外企業は積極的に直接進出を果たしている。香港人は中国の急激な経済成長に脅威を感じている。
- 香港人は、中国の弁護士、会計士などの資格を取得し、拡大する中国とのビジネスにおいて、個々人が成功するチャンスをうかがっている。
- 学問を深く理解するためには、やはりその環境に身を置いたほうがよい。よって、英国の法律を学ぶのであれば、英国で学ぶほうがよい。法学は社会的背景やコンテクス

トが重要な意味を持つ地域に深く根ざした学問である。農学や建築学であればなおさらである。文化や社会を実際に体験しなければ学べないものは多い。

## 《インタビュー6》

実施日：2004年3月4日（木）

場所：情報工学部（Division of Information Technology）

協力者：李寶雲氏、情報工学部プログラム・ディレクター（Ms. Ruby P.W. Lee, Programme Director, Division of Information Technology）

インタビューの目的

- HKU SPACE におけるモナシュ大学のオフショア・プログラム（情報工学）について、授業運営や管理運営全般に関する手法やシステムを理解する。

### 1. 授業形態について

- パートタイム・モード
  - 各学期は13週間からなる。
  - 社会人学生のためのもので、授業形態としては Tutorial と呼ばれるもので、講義と個別指導を合わせたようなもの。
  - 一対一の遠隔授業を上記の Tutorial を補完するものとして提供している。
  - Daytime Mode の2週間分の内容（1回の講義は1時間）を3時間の Tutorial で扱う。よって、Tutorial では難易度の高い箇所のみ扱う。
- デイタイム・モード
  - デイタイム・モードでは集中的に講義が行わる。
- デイタイム・モードとパートタイム・モードでは、対象となる学生のマーケットも授業の形態も違う。
- 二つのモードの学生が同じ授業を取ったり、別なモードの授業を取ることは基本的にはないが、このセメスターからいくつかの授業で試みている。

### 3. 海外の大学との関係形成について（海外学位プログラム）

- 大抵の海外の大学は国際部（International Office）を持っている。また、学部ごとに国際業務（International Business）の担当者がある。
- 海外の大学が可能性のあるパートナーを求めて、SPACE を訪問する場合とこちら側から海外に出かけて行ってパートナーを探す場合がある。
- モナシュ大学の場合は前者であった。
  - Monash International は留学生に関する業務を行っている。オフショア・プログラムについては、別な部署を作って、そこが行っている。

### 4. プログラムについて

- プログラム立ち上げにかかる期間はまちまちである。
  - モナシュ大学の場合は合意まで2-3ヶ月しかかからなかった。

- 学問的な視点からは両者の利害は早期に一致した。しかし、財政的な面で両者が相互に利益のあるようにアレンジしなければならず、そこでの交渉は時間がかかった。
- 現在、情報工学では学士と修士博士課程（モナシュ大学）のみ。この分野での香港のニーズはこの二つの課程が大部分である。博士課程進学希望者は、香港の大学の通学課程へ行くことが多い。
- モナシュ大学の学位課程は、本キャンパス（オーストラリア）で学んでも、SPACEでのオフショア・プログラムで学んでも区別しない。同じ卒業証書が授与される。香港に居ながらモナシュ大学の学位が取得できるのは、魅力的であり、経済的にも節約できる。モナシュ大学に留学して学んでも、SPACEで学んでも、課程としては同じであるが、広い意味での経験としては異なる。実際に留学すれば、文化や社会も学び多くの人に出会う。
- 企業によって、二つのモード（留学と香港で海外学位プログラムを履修）で学んだ人々の評価は異なる。
  - 例えば多国籍企業などは実際に留学した人をより評価するであろう。しかし、別な企業では、働きながらSPACEでパートタイム学生として学んだ人をより評価するであろう。その人のタイム・マネージメント・スキルの高さや勤勉性が証明されるとみなされるからである。
  - モナシュ大学では、科目（ユニット）ごとにホームページがあって、学生は教員への直接の相談や学生同士の議論がそこで行える。
- 情報工学の海外学位プログラム（モナシュ大学）でも、Management Information Systemなどに関しては、ある程度香港の事情を踏まえ内容を変える。例えば香港のケースを使う。会計学についても香港での実務の状況に応じて、カリキュラムの内容を変える必要がある。学問分野によって、改編の度合いは異なる。工学の分野では、改編すべきところは、他の分野より少ない。

## 5. 授業について

- 大抵のコースはE-ラーニング・サポートを持っている。本キャンパスが作ったもので、海外のオフショア・プログラムの履修者も本キャンパスの履修者も、同じ科目であれば、同じサイトを見ることになる。モナシュ大学のプログラムであれば、どこで学んでもいようととも同じマテリアルを下に授業が行われている。
- パートタイム・モードについて、科目によっては、インターネットを活用した遠隔授業（E-ラーニング）でもかなりの部分をこなすことが出来る。しかし、Tutorialやワークショップなどを通して、教室で教員と学生が向かい合って授業を受ける場を一定の枠で設けている。学生もそれを強く望んでいる。E-ラーニングは大学側が考えていたほど、受講者には受け入れられていないのが現状である、

- 教授言語は基本的に英語で、広東語は補助として使用される。授業の形態によってはあるいは個別の質問（授業前後）では、広東語が使用される。授業開始前に担当教員とミーティングを開き、教授言語（授業の内容などを考慮）について話し合う。
6. 単位取得について
- 2年前からモナシュ大学の修士プログラムを行っていて、最初の受け入れの80%が既に卒業した。残りの20%の学生は卒業までの過程は様々である。パートタイム・モードの学生は1学期に2科目履修できる。
  - 1学期間、1つも単位を履修しないこともできる。
  - 初めにSPACEで勉強し、その後モナシュの本キャンパスに留学し、学士課程を卒業したのもいる。また、逆のケースもある。早期にモナシュの本キャンパスから香港にもどり、SPACEで履修を続け、卒業した場合である。
7. その他
- 情報工学では、産学連携が盛んに行われている。HKU SPACEや香港大学の情報工学分野がサイバーポートと呼ばれる、IT関連企業の集積地に移動したのもそれが理由である。IT企業と大学の連携によって生み出されるであろうシナジー効果が期待されている。

## 《インタビュー7》

実施日：2004年3月5日（金）

場所：香港大学 Faculty Club

協力者：

- 沈雪明博士、副院長 (Dr. Shen Shir-ming, Deputy Director)
- 陸人龍博士、副院長 (Dr. Michael Y.L. Luk, Deputy Director)

インタビューの目的

- HKU SPACE の運営方針について理解する。

### 1. SPACE の運営について

- SPACE では、プログラム間で相互に財政援助を施すシステム (“Cross-subsidizing system”) をとっている。
  - 収益性の高いプログラムからの利益をいったん SPACE の本部が引き上げ、それを収益性の低いプログラムや開発途上のプログラムに与える。
- 経営方針として、ビジネスアプローチをとるが (ビジネスの原理を応用するが)、プログラムを商品化することはしない。
- SPACE の成功の背景には、香港独特の経済的、社会的、文化的環境と香港人の勤勉性があげられる。
- 国際化とは地方化 (特定地域にあわせた変更: localization) でもある。グローバル化をその地域でのニーズに合わせて、どう消化していくかがカギである。

## 《インタビュー8》

実施日：2004年3月5日（金）

場所：香港大学内の博物館・美術館（University Museum and Art Gallery）

協力者：李正儀博士、副部長（Dr. Jane C.Y. Lee, Associate Director）

インタビューの目的

- HKU SPACE が中国大陸で展開するプログラム（China Development Program）について、その戦略と持続的な成功についての管理運営の手法を理解する。

### 1. 2つの発展ステージについて

現在、SPACE の5つのセンターが中国大陸にある。

#### 第1ステージ

- 復旦大学（上海）と私立教育機関（北京）で2000年に最初のプロジェクトを起こした（投資をした）。ジョイント・ベンチャー形式でスタート。両センターとも成功とは言えなかった。
- 中国政府の政策的な制約があった。  
中国大陸で事業を興すには、必ず中国の組織（大学が基本）をパートナーに持つ必要がある。香港大学は50%以上のシェアを取得することができなかった。また、香港大学名義の銀行口座を開くことが許されず、口座管理はパートナーが行っていた。近いうちにこれらのセンターを閉鎖する予定。

#### 第2ステージ

- 2001年後半、4つのセンターを設立。珠海（北京師範大学珠海校区）、北京（清華大学）、杭州（浙江大学）、広州（中山大学）。教育プログラムを基盤とした提携（Program based collaboration）の形態を取っている（HKU SPACE は教師派遣や教材などのプログラムのみを提供し、中国本土のパートナーは教室確保や教育施設などの設備投資や資本投資を担っている）。それぞれのセンターが財政的に独立しているので、香港サイドは資本投資をしていない。このモデルは大変良く機能しており、規模は拡大している（中国に海外の大学が進出する際の基本的な形態となっている）。
- 2004年3月には、5つ目のセンターが蘇州科技学院に設立された。
- センターで提供されているプログラムの専攻は、Marketing, Human Resource Management, International Accounting, Public Administration である。
- 一つずつプログラムを導入し慎重に事を進めている。
- 2年前に始められた1年間のパートタイム・プログラムでは、会社員（office worker）勤労社会人（working adult）で学位取得者を対象としている。
- 学費は費用回収を基礎（Cost recovery base）としている。学費はパートタイム・プログラムで年間28,000～30,000 人民元（約38万円～40.7万円）。



- ▶ 授業は基本的に英語で行われるが、いくつかのクラスは北京語も使われる。英語を上達させるのと同時にプログラムを学ぶためには北京語も必要。プログラムには語学（英語）学習も含まれる。学生は勤勉で上達が早い。なぜならプログラムの内容、趣旨を理解しており、最終的に海外で修士号を取得するための第一歩と考えているから。
- ▶ すべての教員は、HKU SPACE から派遣されている。
- ▶ 中国では受講できないプログラムを提供している。具体的には、国際的に認知されている専門的な資格（professional qualification）を取得するためのプログラムや国際的な学問（知識）に関連するものを提供。例えば、中国本土では中国の公認会計士の資格しか取得できないが、International Accounting のプログラムではオーストラリアや米国の公認会計士の資格を取得するためのコースを提供。これらの資格を取得するための必要条件（qualification）を取得するためには約 20 ヶ月かかる。
- ▶ 授業は一つの科目を複数の教員で教える。例えば、一学期間の授業を 3 分割し、3 人の教員がそれぞれのブロック（前半、中盤、後半）を受け持つ。教員は担当のブロックを教えるために香港から中国のセンターに行き、土曜日と日曜日を利用して集中的に（二日間で 12 時間授業）授業を行う。これは、ブロック・ティーチング（block teaching）と呼ばれている。教員は英語と北京語の両方を使えなければ適格者とは見なされない。大陸中国での需要が高いと見込まれる Common Law プログラムの立ち上げにおいて、香港在住の資格を有するであろう優秀な弁護士（教員候補者）のほとんどは英語または広東語しかできなかったため（北京語が出来ないため）、一部のセンターを除いて立ち上げを断念した（本格的な立ち上げが出来なかった）。

## 2. プログラムを成功とみなす要因

赤字にならないこと。

プログラム（収益性の高いもの）を拡大できる可能性があること。

## 3. リクルート

収益の 50%は中国大陸のパートナー大学が受け取る。残りの 50%は HKU SPACE が受け取る。

志願者は入学審査にかけられる。中国側のパートナーのほうが地元の事情を分かっており、かつコネクションがあるため、学生募集はパートナー大学が行う。そのため、リクルートに関して詳細は分からない。香港サイドは中国でのコネクションがないので、一般的な宣伝だけでは学生募集への効果は上がらない。

一般の人（個人）というよりは企業に対して学生募集活動を行う。

中国企業の CEO は Marketing プログラムにおける学生募集のターゲット。

各企業の社長のネットワークによって、志願者が広がる（増える）。

中国での学生募集活動は、香港に比べ予算がかかる。

中国において、国内と海外の機関へ課すメディアの広告料金の金額は同等であるが、新聞に広告を掲載しても見る人は少ない。

#### 4. マーケットについて

外国の大学が中国で開講しているプログラムの授業料は大学によってかなり異なるので、平均値は非常にわかりにくい。修士課程プログラムには 300,000 人民元（約 407 万円）や 600,000 人民元（約 810 万円）かかるものもある。

市場競争が授業料を高くしている。マーケットの情報はかなりの混乱を来している。よって、中国に良いパートナーを持つことは重要。なぜなら、良いパートナー大学はリーズナブルな学生数をリクルートすることができるから。

マーケットの情報は混乱かつ正確なものが不足している。学生は海外の有名大学のことを知らないから、大学のブランドを確立し、その情報を流布しないと志願者は授業料のみで入学先を決定してしまう。このような状況から、中国の大学と大陸で事業を展開するのを躊躇する海外の大学も多い。

中国大陸でのプログラム開始の際、資本投資、設備投資はリスクが高い。

プログラム・ベースのコラボレーションが安全

米国、豪州、英国の大学も中国の大学と教育プログラムを基盤とした提携（Program based collaboration）をしているが、それらの大学も慎重にプログラムを展開している。香港と中国は共通の公式言語（北京語）でコミュニケーションをとることができるが、それでも文化的なギャップがある（契約や法制度など）。米国とはもっと違いがあると思う。中国は西洋的なものにとらえ方が苦手。例えば、中国サイドは契約後に交渉しようとする。外国の大学が中国の大学と交渉しようとするとき、自分たちとは異なった解釈や目的が存在していることを知っておくべきである。

中国大陸における高等教育のマーケットは、確実に大きくなっている。中国の急速な経済発展により、人々は裕福になり、高い学費でも支払える若者が増加している。外国の大学の高いプログラム（修士課程や MBA）については、学費を個人が支払う場合もあれば、勤めている会社が支払う場合もある。

中国の著作権に対する認識は非常に弱い。中国の一流大学の一つが、HKU SPACE のプログラムを完全にコピーして、その大学のウェブサイトに乗せていた。削除するよう要求し、現在も抗議中。このような問題は中国でよく起こる。

中国に進出する海外の大学や企業は 100%の成果を生むために 200%の努力が必要だと思う。香港人でさえ、民族的には同じでも多くの問題にぶつかる。アカデミックな面以外の問題が多く絡んでいる。

## 5. 大陸中国の大学について

大陸中国から香港へ入ってくるプログラムは非常に少ない。3年前から、清華大学の1つのプログラム（中国法）をHKU SPACEで行っているが、このケースは稀である。地理的に香港が（諸外国に比べると）清華大学に近いこともプログラム実現の後押しをした。

- ▶ 中国教育省の認可でなく、中国中央政府の認可によって作られた。その根拠となるものは、2003年3月に採択され、9月に施行された「中外合作弁学条例」である。
- ▶ 中国では法令関係の細則の作成に時間がかかる。よってこの条例の詳しいガイドラインはまだできていない。中国の大学でこのようなプログラムを扱う部署は、大学の生涯学習機関（School of Continuing Education）や学部など様々である。
- ▶ 授業は大学の施設を使う。

中国の大学には清華大学のように、非常にビジネス志向の強い（business and enterprise orientated）大学もあれば（2つの上場企業持っている）、中国人民大学のように保守的な大学もある。実にさまざまなタイプの大学がある。

中国の大学では、一つのプログラムで10,000人も集め、高額な学費を取るような事件もあり、この大学は政府から運営の禁止命令が出された（5年間の学生募集を禁止された）。

中国にはきちんとした政策がなく、行政や法律に一貫性がない。また規則がきちんと履行されない。

中国のトップ10の大学との提携はまだ安全であると思う。パートナー大学の選択は重要。

## 6. 収益について

収益の50%は中国大陸のパートナー大学が受け取る。残りの50%はHKU SPACEが受け取る。

現在中国国内では、海外の企業や大学が中国の企業や大学と共同で銀行の口座を持つことができるようになった。ただし、外貨コントロールのためそこに預金したお金を中国の外に持ち出すことはできない。よって、本当に信頼できるパートナーが必要となる。

収入の中から、まずHKU SPACEの教員の給料分が確保される。学生募集、教室の手配等は中国大陸のパートナー大学が行う。

香港大学（HKU SPACEではなく本体）の経営学大学院（School of Business）と復旦大学が共同で行っているMBAプログラムでは毎年60~70名が修了しており、大陸中国の大学との提携事業としては成功を収めている。また、HKU SPACEと清華大学とが提携して共同で行っている中国法の第二学士プログラムも年間約100名の適格な学生を確保できていることから十分成功しているといえる。

## 7. 学位について

HKU SPACE が中国で展開しているプログラムは Postgraduate Diploma を授与するものを基本としている。この Diploma を取得したものは、その後半年間、米国の California State University, Fullerton で勉強するか、HKU SPACE で提供される California State University, Fullerton の修士課程に接続すれば（編入すれば）、修士号を取得できる。

現在 SPACE が中国で実施しているものは、ほとんど学位を授与しな（Non degree）プログラムである<sup>1</sup>。現在は、中国の高等教育マーケットをテストしている段階である。中国の多くの学生は修士号の取得を望んでいるが、彼らの英語能力を考慮すると、英語を教授言語とする修士課程に適格なものはまだ多くない。

## 8. その他

SPACE では、中国開発チーム（China Development Team）関係の仕事に 15 人が携わっている。他に 200 人の教員が何らかの形で関わっている。

外国の大学が中国で事業を展開する第一段階で、中国の大学に対して教室使用料などを支払うと高くつく。教室の確保等施設面の整備は中国側の大学に任せたほうがよい。このアレンジメントは、プログラム・ベースの提携であれば可能。海外の大学が中国の大学の施設を利用できるように交渉する。

---

<sup>1</sup> ただし、HKU SPACE は、北京（精華大学）で、豪州のカーティン工科大学（Curtin University of Technology）の学士課程（Bachelor of Commerce）プログラムを実施している。これはカーティン工科大学が HKU SPACE を通して、中国でオフショア・プログラムを展開していることを意味する。

## The University Grants Committee of Hong Kong

(香港大学教育資助委員会)

所在地：7/F., Shui On Centre, 6-8 Harbour Road, Wanchai, Hong Kong SAR, People's Republic of China

創立年度：1965 年

設置形態：非法定顧問委員会

UGC が資金を提供している大学に在籍する学生数：70,138 人 (2003-04 学年度)

UGC が資金を提供している大学に在職する教職員数：14,590 人 (2003-04 学年度)

UGC の経常費補助金総額：11,566,000,000 香港ドル (約 1,623 億円)

Web Site: <http://www.ugc.edu.hk/>

UGC は、香港特別行政区行政長官の委任に基づき、香港にある高等教育機関 (大学) の発展と資金援助に関する政策について、政府へ公平かつ尊重されるべき専門的な助言を行う非法定顧問委員会である (UGC は法制上にも行政上にも権限を持たない)。UGC は、学問の自由と大学の自治を守りつつ、納税者に対する説明責任を果たしており、いわゆる大学と納税者の間で緩衝装置のような役割を担っている。UGC は 1965 年に British University Grants Committee の方針や実務に基づいて正式に設立され、香港のニーズに合うように改編されながら発展してきた。UGC は、入手可能な資金援助のレベルを図る指標、政府によって定められた課程や年度ごとの予定学生数の合計、政府によって基本的に認可された大学ごとの学生数、学術の発展を支援するための資金事業または社会のニーズに合うよう各大学によって提案された様々な学科課程間の学生数の配分に照らし、正確な補助金案を作成する。UGC の補助金額の決定は、UGC によって開発された手法によって、基本的に決定される。その手法は 4 つの要素から成り立っており、教育 (約 68%)、研究 (約 20%)、パフォーマンスと役割 (約 10%)、そして専門的な活動 (約 2%) である。また、UGC は、国際的な水準や実情に応じた学問的助言を与えるとともに、大学の質的保証とイニシアティブや意思決定を促進するための支援をしている。UGC から資金提供を受けている大学は、独自の条例や運営評議会を持つ自治体であり、カリキュラムや学問的水準の管理、スタッフの採用や学生の選抜、資金の学内分配については、各大学が自由に行えるようになっている。

現在、UGC が資金を提供している香港の 8 大学は、City University of Hong Kong (CityU), Hong Kong Baptist University (HKBU), Lingnan University (LU), The Chinese University of Hong Kong (CUHK), The Hong Kong Institute of Education (HKIED), The Hong Kong Polytechnic University (PolyU), The Hong Kong University of Science and Technology (HKUST), The University of Hong Kong (HKU) である。

出典：About the UGC

<http://www.ugc.edu.hk/eng/ugc/about/about.htm>

## 《インタビュー1》

実施日：2004年3月5日（金）

場所：大学教育資助委員会の会議室 (University Grants Committee's Conference Room)

協力者：黄海韻氏、副事務局長 (Ms. Charmaine Wong, Deputy Secretary-General, Secretary, Research Grants Council)

インタビューの目的

- 香港特別行政区政府の留学生政策と高等教育政策について理解する。

### 1. 香港（本地）の学生への政策について

- 香港の若者の大学への入学者増を望んでいる。その理由は文化的・教育的に学生のためになることが多々あるから。そのためには2つの方法がある。1つ目は地元の若者が香港で学ぶのに魅力的な環境を作ること。外国人留学生にも香港の大学に来てもらうよう働きかけ、キャンパスを国際化させること。2つ目は大学に短期留学プログラム (Exchange Program) を開発させ、香港の大学へ入学した地元学生も留学経験が得られるようにすること。プログラムによるが1セメスターまたは1年間留学した学生の単位は在籍大学での単位認定が可能である。
- 本地（地元）学生 (Local students) とは、香港の永住者と香港で3年間継続して居住している者をさす。非本地：香港以外出身の学生 (Non-local students) と言ったとき、主たるターゲットは中国大陸の学生である。

### 2. 留学生政策について

- 1993年に海外からの留学生に関する政策が正式に取り入れられた。
- 現在、香港特別行政区政府は留学生の数を学生数全体(学部課程と大学院課程の Taught Postgraduate Programmes : コースワーク中心の修士課程プログラム) の4%まで増やすことができる許可を出しており、その数を目標としている。これらの学生は公共の財源から支援されており、授業料が低く抑えられている（地元（本地）の学生と同額）。
- レベルによって、具体的には学部課程、大学院の taught postgraduate programmes (修士課程) と research postgraduate programmes (修士課程と博士課程) ごとに条件が異なる。research post graduate programmes (研究中心の修士及び博士課程) では今まで学生定員の3分の1まで留学生を受入れることを認めていたが、その政策的にその制限は撤廃された。現在では、research postgraduate programmes において留学生を出来るだけ多く（制限なく）募集することが許されている。
- 留学生の割合が4%では十分ではないと思う。しかし、留学生の増加は香港人（本地）学生の減少となる。さらに、納税者は大学への資金の82%をサポートしているので、UGCは公共財源について配慮せねばならない。2005-06学年度から、上記4%の留学

生とは別に、4%の留学生枠を上乗せする（確保する）こととした（各大学は合わせて、定員の8%まで外国人留学生を入学させることができるようになる）。ただし、この上乗せ分の学生は、公的資金の対象外となり、正規の授業料に加えて、留学生の増加に伴うダイレクト・コストの増加分を支払わなければならない（地元（本地）学生と最初の4%の留学生より高い授業料を支払う）。大学院課程の中で、MBAプログラムなどは、すでに独立採算のプログラムであり、この種のプログラムでは、このような留学生枠の制限は適用されない。

- 留学生の学費設定に関しては各大学の自治の範囲である。よって、UGCが決定することはしない。各大学には留学生の学費を地元（本地）の学生と同額にするよう勧めており、これまで、最初の4%の留学生（2005-2006年の新ルールによって上乗せされる分ではない留学生）に対してそれは実行されているし、新ルールによって上乗せされる4%の留学生に対しても、初年度はできるだけ、地元学生と同額にするようお願いしている。ただし、大学が優秀な学生に奨学金を与えることは可能であり（実際、優秀な留学生への奨学金の支給を促している）、上乗せの4%にあたる留学生でさえも、優秀であれば学費が全額免除になることもありえる。UGCとしては、大学が奨学金を与えることで、留学生の支払う学費が二つの4%枠にかかわらず、できるだけ等しくなることを望んでいるとともに、より優秀な留学生を受入れるために、能力ベースの奨学金の導入を勧めている。
- 中国大陸の若者は香港の大学の留学生（非本地学生）リクルートにおいて、主たるターゲットである。留学生リクルートに関する方針や活動は各大学が自由に決められる。2002-03学年度のUGCが資金を提供している大学における学位取得目的の留学生数は2,604名で、そのうち中国大陸出身者が2,230名であった。日本（9人）、インド、韓国、マカオ、タイ、米国、英国等も含まれる。この数には全レベルの学生が含まれている。交換留学生や独立採算プログラム（MBAプログラムなど）の留学生は含まれていない。よって、正確な留学生数は把握していない。
- 大学に留学生の受入れを人数で把握させるのは困難であるため、入学定員の割合（パーセント）で示している。
- 留学生受入れ枠の8%という数値は固定されたものでなく、今後も検討していく。現在、大学側にはその割合に見合った留学生の増加を推進している（現時点では、学部生に関しては実際2%にも達していないのが実状）。今後、中国からの学生を増やす可能性はあるが、成果が見られた後に検討する。これは、**research post graduate programmes**（研究センターの修士及び博士課程）で、留学生の割合を20%から33%にし、現在では制限がなくなった過程を参考にする。
- 1990年代終わりに、留学生に関して新しい政策がとられた。中国大陸出身の学生が大学卒業時に香港で仕事を見つけられれば、香港に住むためのビザを申請できるようになった。

### 3. 留学生の受け入れに関する二つの目的について

- 一つ目は、香港の教育の促進である。政府は香港がこの地域における教育のハブ (Education hub) となるべきという目標を掲げている。文化的教育的視点から地域活性化の促進も目的にしている。
- 二つ目の目的は利益追求である。第一の目的より重要度は低い。現在 UGC は大学に対して財源の多様化を図るよう指導している。UGC は卒業生ネットワークを構築することを奨励している。2003-04 年に 1 年間の "Matching Grant Scheme" というのを始めた。これまで香港では一般的でなかった大学への寄付(卒業生等から)も奨励している。Matching Grant Scheme の下、卒業生のネットワークが強化され、それが財源の多様化に一役買っている。新規に上乘せする 7% の留学生に対し、正規の授業料に加えて、留学生の増加に伴うダイレクト・コストの増加分を支払わなければならないとしたことも、財源多様化の一環である。これは大学自体も進めている。しかし、英国、シンガポール、豪州のような高等教育の産業化まではいっていない。

### 4. HKU SPACE との関係について

- UGC は SPACE のような独立採算の学校を監督する立場にない。
- SPACE が出向く場所にはいつでもマーケットがあり、よって利益は大きい。
- SPACE が提供しているようなプログラムは独立採算が基本。SPACE のような機関は大学の continuity educational arm、あるいは extension arm<sup>2</sup>と呼ばれている。
- 香港にとっては、大学院生が増えれば増えるほど良いと思う。よって、SPACE と既存の大学の競争は健全な競争といえる。大学も SPACE の経営管理のやり方に近づいているところがある。
- UGC は学生が就職するのに必要な課程に関しては学部と同じ扱いをし、支援を続ける。金融などの大学院は大学が独立採算のプログラムとして積極的に作っている。このような多様化が UGC と大学の関係の方向性である。
- Level Playing Field (平等な競争条件) の政策を行っている。それは、公立大学の独立採算の課程に公的資金を使わないようにするものである。また、SPACE のような本体は公立大学で、それが独立採算の機関を設立した場合、大学と関係のない SPACE と同じようなプログラムを提供している独立採算の教育機関がマーケットで不利にならないようにするためといってもよい。

### 5. UGC と香港 8 大学について

- 香港には UGC が資金を提供している (公的資金を投入している) 大学 (UGC funded institutions) が 8 つあり、それらの大学の収入の 82% は政府からの補助金で、残りの

<sup>2</sup> 大学の教育機能を公開講座や生涯学習というプログラムを通して地域に開放していく機関



18%が授業料収入。

- 香港 8 大学は、政府からの財政的援助を受けているが、香港の大学における学問と大学運営の自治は尊重されている。
- 大学の学科数とその種類は、香港政府によって管理されている。これらは 3 年ごとに報告の義務があり、審査を受ける。政府は学科の定員数について、具体的に要求することもある。8 大学の予想する定員数と政府が要求する定員数から、適切な受入れ学生数を判断し、それをもとに補助金の額を決める。
- 香港 8 大学は、自己認可制度 (Self-accrediting Status) を付与されている。新しいコース等を設置する際、政府はこれらの大学が決定したものを信用しているので、政府へ認可の申請する必要がない。質保証のためのスキームである“TLQPR” (Teaching and Learning Quality Process Reviews) で香港大学の質を評価する際、SPACE (SAS に属するため) の QA も視野に入れる必要がある。“TLQPR” は、様々な角度から教育の質が保証されるためのプロセスについて調査している。
- UGC と大学が話し合いを持ち、2005-06 年に新たに上乗せされる 7%の留学生は授業料 60,000 香港ドル、香港の地元学生は 42,100 香港ドルを支払うよう決めた。留学生には奨学金を与える可能性もある。全学部に共通の金額である。

## 6. 香港政府について

- 香港の高等教育において、香港政府といえば、Education and Manpower Bureau (EMB) をさす。Manpower という言葉が入っている裏付けとして、専門学校等の行う職業訓練プログラムも EMB の管轄だから。EMB 内には、Vocational Training Council がある。
- EMB は、Academic Development Proposal を担当(高等教育におけるプログラムの管理)している。不人気なプログラムを縮小する。また人気のあるプログラムを拡張する。純粋に学術的なプログラムと実践的なプログラム、人文科学と応用科学のバランスが大事。
- UGC が与える補助金には Block grants (大学へのまとまった補助金) と Earmark Grants (特定目的の補助金)がある。例えば、Language Enhancement Grants (語学教育改善のためのもの)、Teacher Development Grants (教員の質を高めるためのもの) など。
- 政府が大学生の数 (受入れ数) を管理している。現在、中等教育卒業生 (17~20 歳) のうち同世代(Age Cohort)の 18%が、香港 8 大学に進学している。その数は約 14,500 名。2010 年までに 60%の中等教育卒業生が高等教育(大学だけでなく専門学校等も含む)に進学できるようにするのが香港政府の当面の目標。
- 香港の学生が留学するために支払われる政府からの奨学金はない。財団等から得ることは可能。香港の亡くなった有名な企業家の奨学金などがある。学生ローンは香港の

大学へ進学をする目的でのみ申請可能である。

## 7. その他

- 中国の大学との協力は、共同研究と学生交換プログラムという点で推進されている。大学によっては中国大陸にサテライトキャンパスや分校を作っているが、これは独立採算で運営されている。
- E-ラーニングに関しては管理をしていない。大学次第で、自由に行える。E-ラーニングだけでは不十分だと思う。E-ラーニングへの特別な公的資金はない。

## 匿名の生涯教育機関（本文中Aと称する）

（面接者の意向により、本生涯学習機関に関しては匿名とする）

### 《インタビュー1》

実施日：2004年3月4日（木）

協力者：匿名、応用科学関連の上級プログラム・マネージメント・スタッフ

インタビューの目的

- 海外の大学のオフショア・プログラム（科学分野）について、立ち上げから管理運営の手法やシステムを理解する。

### 1. 海外学位プログラムにおける提携大学との関係構築

- プログラムの大半は、英国あるいは豪州の新興大学との提携で実施されている。
  - 多くはないが米国、カナダの大学とも提携して海外学位プログラムを実施している。しかし、米国やカナダの大学（特に公立大学）は、より自国の学生を入学させたがる傾向にある（英国、豪州と比較して）。英国、豪州の大学の方がオフショア・プログラムの展開により積極的である。提携大学にはロンドン大学(University of London)、モナシュ大学(Monash University)、カーティン工科大学(Curtin University of Technology)、バース大学(Bath University)、リーズ大学(University of Leeds)、ノッティンガム大学(University of Nottingham)、カリフォルニア大学バークレー校エクステンション・センター(UC Berkeley Extension Center)などがある。
- 第一に海外学位プログラムのディレクターとしては、プログラムの立ち上げにあたって、マーケットを選別することが大事。そして、学位授与プログラムの提携大学（パートナー）として、その分野における有望な海外の大学を探す。
- 対象学生確保の可能性を調査するため、マーケット・リサーチ行い、立ち上げ予定プログラムに対する香港高等教育市場における真のニーズを調べる。また、提携大学を探し始める。ただし、この際、理想だけで、パートナー（提携大学）を見つけようとしてもうまくいかない。プログラムの現実的な可能性を考慮して、できるだけ最適なパートナーを選ばなければならない。例えば、環境衛生（保健）のプログラムを立ち上げようとする場合、これは新しい応用科学の分野であるため、伝統的な大学はそのプログラムを持っていないことが多い。よって、大学の格やランクだけを見ては、最適なパートナーは見つからない。
- プログラム開始において、2種類のアプローチの手法がある。Aから海外の大学にアプローチする場合と、海外の大学がAにアプローチする場合である。例えば、海外の大学が大学フェア（Education Fair [in Education Exhibition Center]）のために香港へ来る。これを通して、まずAとの関係を作り、その後現地調査を行う。
- 提携大学とは平等な関係を築こうとしている。香港における海外大学のエージェントではありたくない。例えば、法律の場合、健康法(Health Law)などでは、地域立法府(Local Legislation)についての内容も必要である。香港の事情や基準を知らずに、英かEUの法律を全て知っていても意味がない。カリキュラムの内容を削減や削除しよ

うとするわけではない。そのようなことをしたら、提携予定大学側の賛成が得られない。既存のカリキュラムに香港の事情を反映した科目を追加させるという視点で交渉する。

- 香港の大学生の方が一般的に海外の学生より勤勉で、授業の内容について厳しい目を持っている。また、卒業後すぐに就職して出世したがる。このようなことから、香港の厳格な QA の基準や制度が海外の（提携）大学の参考になる場合もある。
- 提携大学との関係が教職員の個人的なコネクションから始まった場合もある。
- 香港の提携先である B 大学との編入学・単位編入(Transfer Credit System)を、現在開発中である。A のある準学士プログラムでの修得単位は、B 大学の学部課程への単位認定が可能となっており、当該プログラムの卒業者は B 大学の学部課程（3 年間の課程の 2 年目に）に編入できるようになっている。つまり、A で取得した単位を B 大学にトランスファーすることができる。この点からは、B 大学の各学部と良い関係を持つ必要がある。
- A の研究室（実験室）では、先進的取組み（"Proactive Approach"）が基本である。A と B 大学双方の関係は、より良いものとなってきている（両者の積極的なアプローチへと変わってきている）。A と B 大学全体として、そのリソースを最大限に（有効に）利用しようとしている。
- A と B のウィンウィンの関係を築く。
  - 学問分野の違いによる協力：B 大学は伝統的学問である純粋・基礎科学(医学, 歯科学, 看護学)を扱い、A では臨床検査技術(Medical Laboratory Technology)といった応用科学を扱っている。
  - 得意分野の違いによる協力：B 大学は教育研究そのものに秀でており、A はプログラム開発や運営、マーケット・リサーチ、QA に秀でている。
  - ターゲットにしている学生層の違いによる協力：B 大学のターゲットはフルタイム学生中心で、A はパートタイム学生（勤労学生）中心である。

## 2. プログラム開発について

- 様々なプログラム(Biomedical Sciences, Sports Management, Field Environment, Education, Human Resources Management, Law, Accounting, Business 等)を海外学位の対象にしている。
- A が新しい海外学位プログラムを開発する場合、香港の経済発展やニーズそして社会事情を考慮する。また、既存の高等教育プログラムが、それらの状況に対応したプログラムを提供しているかも調べる。また、プログラム開発のためには、提携を前提に海外の大学の関係者を招待したり、海外から専門家、経営者を招いて意見を聞くこともある。例えば、観光学が良い例であろう。観光産業は香港にとって重要な産業であるにもかかわらず、既存の大学には、この分野の人材育成を担うようなプログラムはなかった（特に高度な知識を持ったマネージャークラスを養成するプログラム）。よって、観光産業に従事する人々は、まずこの分野の企業に就職し、日々の業務で経験を積みながら、あるいは上司の指導の下で、専門的な知識やスキルを学んでいくしかなかった。香港政府も、より適切な教育方法やプログラムによって、観光産業の人材育

成を行うべきと認識していた。そこで、Aはハワイの大学を始め海外の観光学の良いプログラムを調査した。その中から香港の事情に適したプログラム（カリキュラム）をいくつか候補として選択し、それらの大学と交渉を始めた。その際、それらの大学が香港でプログラムを展開したいという意志があるか、そのためには、それらの大学の既存のカリキュラムを香港のニーズや状況に応じて、ある程度、改編することに同意してくれるかなどが、最終的にパートナーを絞る際の判断基準となる。Aは海外の大学のプログラムをそのまま輸入して、実施するのではなく、香港の事情を考慮し、地域社会が必要としている要素をカリキュラムに反映させようとしている。言い換えると、Aは海外の大学の現地エージェントではないので、安易に海外のプログラムをそのまま輸入しない。Aがこの種のプログラム開発を通して、香港の社会や経済に貢献していることをもっと、プロモーションする必要がある。

- オフショア・プログラムにおいては、学術面でも、財政面でも、運営面でも高いパフォーマンスと効率性が求められる。戦略的なアプローチが欠かせない。

### 3. 授業評価について

- 全てのコースにおいて、学生が評価票や質問紙を用いて、授業評価することが可能となっている。学期（Module：履修単位）の最後に調査を行うと授業改善ができないため、学期の約3分の2過ぎた時点で行う。学生からの授業評価だけでなく、教員から学生に対するフィードバックも活用する。
- 授業評価を通して、どういう必要があるかがわかり、マーケット・リサーチにもつながる。見過ごしていた学生の期待に気付くことができる。
- Aの学生のほとんどは社会人で、スキルアップ、資格取得という自己投資のために海外学位プログラムをとっている場合が多い。よって、コスト意識も高く、授業に対する目も厳しい。
- 授業評価の結果は、教員の給与には反映しない。
- 授業評価を通して問題が発覚した場合、あるいは学生から厳しいコメントが寄せられた場合は、その問題に対して注意深く調査（授業参観や行ったり、教員や学生に直接話を聞いたりする）を行う。これは、問題の所在が学生にあるのか教員にあるのかをはっきりさせるためである。

### 4. 収益について

- オフショア・プログラムによって、収益を上げることは海外の提携大学の重要な目的の一つである。よって、できればその収益性は高い方が良いと思っていることは否定できない事実である。
- 提携大学はプログラムが軌道に乗るまで、香港である程度の先行投資をしなければならない。
- プログラムの収入は、Aと提携大学で分割する。だが、AはB大学と提携しているため、収入の一部はB大学に納めなければならない。
- AがB大学から何か（教室、実験室等）を借りるときはいつでも、使用料を払う必要がある。Aは予算の100%が独立採算のなかで賄われており、いかなる時も政府の助

成金を得ることはない。

- AはB大学に間接経費（教室使用料、施設使用料、実験室使用料、図書館のコストなど）を支払うことと、B大学から借りた教員の給与分を支払っている。年末の決算で予算に余剰がでた場合、B大学にリサーチ支援を行う。これは、AとB大学との合意事項の一つである。

## 5. 問題点について

- オフショア・プログラムの展開において輸出先（海外の進出先）の言語（英語）能力の程度は大きく影響する。香港の高等教育では一般的に英語を教授言語として使っているため英語圏の国々の大学にとっては、進出しやすい環境にある（それでも最近では香港人の英語力が昔ほど高くないため、海外学位プログラムに入学できないもの、入学しても授業についていくことが困難な学生も多い）。志願者に対して、海外の提携大学が求めるレベルの英語力を要求すると十分な学生が集まらないこともある。しかし、出願要件の英語力（TOEFL のスコアなど）を安易に下げることができない。この点から、日本の場合、日本の大学が海外でオフショア・プログラムを展開するにおいても、あるいは、海外のオフショア・プログラムを受入れるにおいてもハードルが高いであろう。
- 海外の提携大学（パートナー）と仕事をする上において、香港と英米との大きな時差も深刻な問題である。残業を強いられることも多い。
- インターネットやウェブサイトを使った e-learning を授業時以外の教員と学生のコミュニケーション（インターアクション）に使っているが、これは教員にとって負担が大きくなる。24時間以内に学生の質問に答えなければ、学生は不平を言い出す。

## 6. プログラム・ディレクターの業務内容について

- 自分の専門領域以外に工学など7つの分野（同じ学部に所属しているため）を指揮監督しなければならない。また、マーケティング、財政の管理、QA 等に関する分野の仕事も多い。仕事に内容は多岐にわたる。管理業務の仕事がとても多い。多くの会議に出席し、毎会議ごとにレポートを書かなければならない。独立採算機関であるため、明確な現状認識と戦略的計画が特に重要である。競争が激しくなっている折、常に収益や学生数、授業評価の内容などで昨年より今年、今年より来年は向上するよう求められている。